

Book Review



決定版 治癒の病理 臨床の疑問に基礎が答える

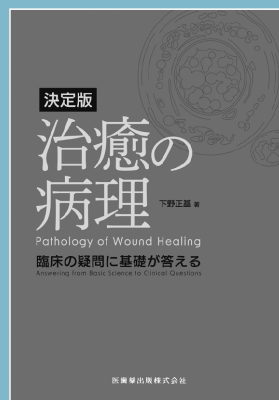
下野正基 著



Reviewer

齋田寛之 Hiroyuki Saida
(埼玉県・齊田歯科医院)

A4判, 592頁
カラー
定価 33,000円
(本体 30,000円+税 10%)
医歯薬出版刊



満を持して、“治癒の病理”，その決定版が上梓された。

“治癒の病理”——そのはじまりは1988年。日々の臨床の疑問に対して、臨床家が答えられる範囲は限られている。臨床における歯周組織の変化は組織学的には何が起きているのか、その答えを基礎の立場から答えるという画期的な企画は瞬く間にベストセラーとなり、第2弾となる2011年の“新編治癒の病理”に続いて、第3弾となる今回は大改訂が加えられ、ハードカバーのまさに臨床の辞書となった。

本書の構成は大きく、「歯周疾患」「象牙質・歯髄複合体」「移植・再植・歯の移動」「インプラント」の4つのパートに分かれている。つまりペリオ・エンドをベースとして、歯根膜治療とそれがないインプラント治療と、内容的に日常臨床を大きく網羅している。

それぞれのパートではさらに細分化され、解剖学・組織学・病態など基礎的な分野の解説がなされており、加えて近年研究が進んでいるトピックも盛り込まれている。歯周疾患であれば歯周組織再生、全身疾患との関わり、象

牙質・歯髄複合体であればリバスクリゼーション、移植・再植・歯の移動であればBio-implant、インプラントであればインプラント治療後の維持管理などである。

そして、それぞれのパートの末尾には、「臨床的考察」と題して臨床医が抱きやすい疑問に基礎の立場からの明確な答えが用意されている。

本シリーズの特徴として、臨床医が会おう疾患の病態や、それらに対して行う治療のなかで、生体に起こる現象に忠実に寄り添い、深掘りして解説されていることがあげられる。

われわれ臨床医は日常臨床をこなしつつ、日々研鑽を積み、そのなかで上手くいくことや、それでも思うようにいかないことに出会う。そしてその時ふと考えるのである。目の前の患者の口の中では何が起きている、あるいは何が起ってきたのだろうか、と。だが、このようなささやかな疑問は「臨床的に問題は解決されている」という現実や、押し寄せる課題にたやすく押し流されてしまう。

しかし、そういった瞬間に本書を手にとれば、そこには現代の科学的見解

が網羅されており、必ず疑問に答えてくれるであろう。

本書では歯科臨床で出会うさまざまな現象に関して、分子、細胞、組織それぞれのレベルで詳しく解説されており、われわれ臨床医が普段触れることの少ないミクロの視点で描かれている。それらは臨床に用いるマイクロスコープでも見ることはできない。しかし、われわれが臨床で行う治療はマクロであり、それは紛れもなくミクロの集合である。それらを理解することは、治療手技に対するより深い理解に繋がり、理想的かつ本質的で緻密なEBMを実現できると言える。

これこそが下野先生が思い描いた最大の狙いであり、本シリーズを磨き上げてきた信念ではないだろうか。基礎医学研究の成果はそれによって得られた見識が臨床現場で活かされることにより報われる。この書籍はそんな下野先生の想いが具現化された結晶と言えるのではないだろうか。われわれ臨床医はこれを受け取らない手はないであろう。

ぜひとも一医院に一冊常備したい歯科臨床医必携の傑作である。